

会場からの質問に答える櫻井准教授、水野教授、薄衣さん(左から)



社会知性フォーラム 北上で開催

専修大学、専修大学北上高校主催の社会知性フォーラムが10月5日、岩手県北上市の日本現代詩歌文学館で開催され、専修大学と石巻専修大学の2教員らが異文化理解と多文化共生をテーマに講演した。フォーラムは、専大の「知の発信」の場として2010年度から始まった地域貢献事業。北上市での開催は3回目。当日は市内外から140人が参加し、熱心に聴講した。

「異文化理解し合う」

専大・櫻井准教授

佐々木重人学長、北上市の及川義明副市長のありさつに続き、櫻井文子経営学部准教授が登場した。ドイツ、チェコなど海外で育った櫻井准教授は9歳で一時帰国した際に、くるんである桜もちの葉をはがしたら「一緒に食べるもの」と言われ、柏もちの葉と一緒に食べたら驚かれたエピソードを紹介。「当たり前なこと、常識の難しさを感じた」と語った。

国際交流を紹介

石巻専大・水野教授

石巻専大の水野純理工学部教授は、同大の国際交流の取り組みについて紹介した。米国、中国などの国際交流協定や、留学支援プログラムについて解説し、「キャンパス

大学院公開講座「マンガ・アニメの役割語」

登場人物にふさわしいセリフって？

大学院公開講座P A R T 1「マンガ・アニメの役割語」が10月4日、神田キャンパスで始まった(25日まで全4回)。初回は文学部の阿部貴人准教授が「役割語とは」をテーマに講演した。写真。役割語とは、あるキャラクターが登場すると、「この人だったらいかにも使えそうだな」と思い浮かべる言葉つかいのこと。例えば「そうじゃ、ワシは知っておるんじや」というセリフを聞く「鉄腕アトム」のお茶の水博士に代表されるように、高齢者や博士がイメージされやすい。

文・阿部准教授が講演



役割語を研究対象の一つとしているのが社会言語学で、阿部准教授は冒頭、社会言語学の概要を紹介。年齢、出身地、性別などによって言語は違うのか(言語変種)、ある言葉に対してどのよ

にクイズ形式を考えてもらった。講座を通して、キャラクターをピッタリとイメージする言葉つかいが、実際にはあまり使われていないことも分かった。阿部准教授は「私たちの世界で使われている言葉は、リアルと、『この人っぽい』というパッチャルの両面が絡み合っている。いま自分が向き合っているのはどちらなのかを常に意識しながら観察する必要がある」と指摘した。会場からは役割語のほか、若者語や方言などの質問が相次ぎ、日常の言葉への関心の深さをうかがわれた。田路彩花さん(文2)

から来た人が理解するのは困難だ」と指摘した。異文化コミュニケーションの心構えは「信頼関係を築き、何が当たり前に理解し合っているか、事。言わずに済ませるのではなく、時には全部説明することも必要だ」と説いた。

外国語のススメ
外国語教育研究室

— 77 —
英語

Joseph W. Poulshock
ポーシャック, ジョセフ W. 経済学部教授

ARE YOU LEARNING ENGLISH THE HARD WAY?

Once, when I was a consultant for a Japanese company, a manager was unhappy. He said, "We are a global company. I want our workers to improve their English, but they have no motivation!" I said, "They look intelligent and hard-working. Maybe they aren't motivated to learn because they study English the hard way. I can show them a better, more enjoyable way." I told him about a case study by Dr. Beniko Mason. In it, a student studied English by doing big, easy reading (多読).

He read many books at just the right level. This means he knew about 98% of the words on every page, so it was easy. In 45 weeks, his TOEIC score jumped from 625 to 795! How about you? Do you lack motivation? Are you studying English the hard way? Then stop STUDYING English and start ENJOYING stories with big, easy, reading.

You can find easy books at the Ikuta Campus Library on the 4th floor in the Graded Reader section, in the Building 10 Core Zone, and in the CALL Self-Study Rooms in Building 1 on both campuses. If you want to improve your English in a fun and easy way, try big, easy reading!

※短縮版。全文はCALL 教室ホームページで。

システム思考
モノ・コトづくりを変える

高橋裕共著

専修人の新しい本

システム思考がモノ・コトづくりを変える

デジタルトランスフォーメーション(DX)を実現するための「武器」を手に入れよう!

本書ではDXを推進し実現するために有効な思考法である「システム思考」を、ビジネスパーソンに向けて分かりやすく説明する。

多様化・複雑化する社会。それは「複数の要素が密接につながり合い、協働し合うシステム化する」社会だ。当然この中で立ちふさがる課題

出版完成披露式は、7月28日、中国・西安市で地方政府の高官や出版界の重鎮を招いて盛大に行われた。

李教授はいさつで、「中国文化走出去来回来」中国の文化が国外に出ていき、また戻ってくるの証しである」と八人集出版の意義を語った。

現在、八人集の続編が企画され、松原教授はこちらも日本側主編者として著作の選定に当たっている。

は、システムとして捉えなければ解決できない。言い換えれば、社会において、モノ(製品)づくり・コト(サービス)や体験)づくりに不可欠な顧客の要望の正しい理解や自社の強みやコア技術を俯瞰的に捉えて見える化し、シミュレーションでDXを成功に導くのだ。

戦略を司る経営層、モノづくり・コトづくりを支える現場のリーダー層はもちろん、DX時代に社会に飛び出す若いビジネスパーソンや大学生にも読んでもらいたい。(日経BP社・本体1800円+税)

著者(たかはし・ゆたか)は専修大学教授。ビジネスと社会システムのコンピュータ・コミュニケーション。共著者は榊方夫東京大学大学院准教授。

佐々木莉子さん(いづれも2年生)が務めた。お話しは分かりやすかった。北上市でも外国人が増えてきたがお互いに理解し合う気持ちを大切にしたい」と話した。

『日本人唐代文史研究八人集』

松原教授らの著作 中国語版発行

中国唐代の文学や歴史でも多大な影響を与えたを研究する日本の学者8人の著作が中国語に翻訳され、『日本人唐代文史研究八人集』(全8冊、西北大学出版社)として発行された。

そのうちの一人が松原朗文学部教授(中国古典文学・唐詩)、『晚唐詩之揺籃』張籍・姚合・賈島論)を著した松原教授は、日本側の主編者も務めた。『八人集』は翻訳者をはじめ関わった人々の情熱が結実して誕生した。中国文学は日本の文化に息づいている。なか

でも異文化交流が活発にできるようさまざまな取り組みをしている」と語った。さらに北上市国際交流協会の薄衣景子代表理事が同協会の活動事例について紹介した。

講演者3人が会場からの質問に答え、最後に専大北上高の及川和夫校長があいさつした。司会は同高の菊池苑子さん、

松原教授の『晚唐詩の揺籃』(12年、専修大学出版局)を翻訳したいという申し出から始まった。松原教授は同著書で、唐末詩歌の様式形成

でも多大な影響を与えた唐代文化の研究を盛り上げた」と語る。

八人集企画は、2014年、中国・西北大学の李浩教授(当時副学長)

松原教授は同著書で、唐末詩歌の様式形成

で5年かけて完成させた。出版完成披露式は、7月28日、中国・西安市で地方政府の高官や出版界の重鎮を招いて盛大に行われた。